ネパールにおける糖尿病研究の国際学会発表及び資料収集

アジア・アフリカ地域研究研究科　博士課程　4 年
中村　友香
アメリカ合衆国
2017 年 8 月 31 日～2017 年 9 月 9 日

計画の概要

本渡航の目的は、①これまでの研究成果をアメリカ合衆国コロラド大学で開催された Himalayan Studies Conference 2017 にて発表することと、②コロラド大学附属図書館にて資料収集を行うことであった。

申請者はかねてから、ネパールの疾病問題、特に糖尿病について医療人類学/社会学的な視点から研究に取り組んできた。本渡航では、ネパールにおける糖尿病の展開と、患者や医療従事者のやりとりに関する現地でのインタビュー調査を通じて得られた成果をアメリカ合衆国コロラド大学で開催される Himalayan Studies Conference 2017 で発表する。世界各地から 250 名以上の発表者が集まる本学会で研究発表することで、日本やネパールにおけるネパール研究者のみならず、世界各国の研究者からフィードバックを得ることが期待できる。そして、ネパールの糖尿病について人文社会科学的な視点から取り組んだ申請者の研究の成果を発表することは、途上国の慢性疾患研究の発展にも寄与するものである。大規模な国際学会での研究の発信と研究者らと学術的な交流を通じて、研究を更に発展させていきたい。

第二の目的はコロラド大学附属図書館において、ネパールにおける保健医療に関する資料収集を行うことである。コロラド大学は 1950 年代からネパールの開発に深く関わっており、関連資料が豊富である。

成果

本渡航では、上記で述べた二つの目的を達成したと言える。まず 9 月 2 日にはアメリカ合衆国コロラド大学（写真 1）で開催された Himalayan Studies Conference 2017 で自らの研究成果を発表した。質疑応答では、保健医療に関わる活動を行うネパール出身者や、アメリカの研究者などから、質問を得た。申請者が発表を行った Health and Hygiene in the Greater Himalaya のパネルでは、申請者の他にヒマーラヤ地域における地理と環境問題を取り扱った発表者が研究発表を行ったため、議論は人文学社会学的視点と地理・環境

学的視点の両方から進められ、両発表者にとって新たな視点の下に自らの研究を改めて客観視するための有意義な機会となったと言える。また、開発や保健医療をめぐる多くのパネルが存在し、ヒマーラヤ・ネパール地域における研究の現状と最新の研究テーマについて知ることができた。研究の先駆者たちと会話をし、多くの疑問点を解決することができたのは大変有益で、刺激的な経験であった。

またコロラド大学附属図書館（写真 2、3）にてネパールにおける保健医療に関する資料収集を行った。特に、ボルダー校附属の Norlin 図書館にはアメリカ政府関連資料が豊富であった。多くの資料が閲覧可能な図書に置かれていたため、USAID をはじめとするたくさんの資料を収集することができた。

初めてアメリカへ渡航し生活する中で得られた文化体験や、研究者たちとの何気ない交流なども、当初の目的では想定していなかった思いがけないよい経験となった。本渡航の経験を通じて、自らの研究をより発展させるために、アメリカの大学院へ留学をしたいと考えるに至った。

写真 1
学会が開催された Eaton Humanities Building、
9 月 2 日撮影

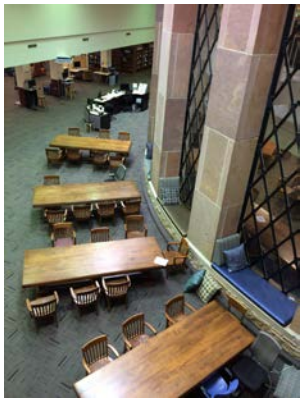

写真 2、3
コロラド大学附属 Norlin 図書館、9 月 6 日撮影